

議事録（無記名・要点記録）

南砺市環境審議会（第1回）

1. 日 時：令和3年1月12日（火） 10:00～11:50
2. 場 所：南砺市役所本庁舎 302 会議室
3. 出席委員：6名（2名欠席）
4. 当局出席者：4名 市長、総合政策部長、エコビレッジ推進課長、環境政策係長
5. 傍聴人：なし
6. 議 事：第2次南砺市環境基本計画策定の概要について

○市長あいさつ

○審議会長あいさつ

○市長から南砺市環境審議会へ諮問

○第2次南砺市環境基本計画の策定について

- ・ 策定の趣旨、策定方法、策定スケジュールについて
- ・ 施策の体系について【現行】をベースにして、環境を取り巻く問題や国の方針、市の取組みを盛り込んで検討すること
- ・ 指標に関すること
- ・ 市民意識調査（アンケート）に関すること

以上を事務局から説明。

委員質疑：（各委員からの意見・質疑は次のとおり）

〔策定の趣旨、策定方法、策定スケジュールに関して〕

- ・ 4月に計画案のスケジュールだが、それまでに市側から意見をいただくようなタイミングはあるのか。
- ⇒3月までに庁舎内各課担当と議論して取りまとめたものを4月早々に委員の皆さまにお渡しして、5月審議会において、皆さまからご意見をいただきたい。

〔施策の体系について〕

- ・ 多くの団体や企業が様々な取組をしている。活動の内容を知るなどの情報共有と連携を進める必要があると考える。
- ⇒前向きに検討したい。

- ・新体系の中に「自然災害の緩和策と適応策」と、漠然と載っているが、計画としてあるのか。

⇒現行の計画では、「自然災害の防止」となっているが、全国的に見ても、防ぎきれないことが多発している。このような中において、緩和策やどのように適応していくのかと項目を示した。詳細な事業については、今後担当課で詰めていくことになる。

[指標について]

- ・指標目標はどのように決めていくのか。

⇒市民アンケート等で市民意識を把握し、環境審議会として指標を定めたものを最終決定することになる。庁舎の各担当で検討委員会を作り、事業推進のための指標を出してもらいその内容を審議していただきたい。

- ・前回指標とある程度比較可能できるものが必要か。

- ・10年前には載っていない、SDGs、食品ロス、エンカルに加えて、市の人口問題などがあり、市民がこれからどう生活していくかが含まれる。

⇒前回のものをある程度参考にするが、市民の意識と日常生活の行動に結びつけていくような指標を考えることが大事になる。

[市民意識調査(アンケート)について]

- ・前回アンケートの回収率と回収方法について

⇒平成28年中間報告時のアンケートは返信用封筒を入れて、1000人に郵送し、600余りの回答があった。

- ・SDGsの視点からのアンケートは前回には無い。多くの市民誰ひとり取り残さないという視点で、エコビレッジ構想やSDGs未来都市の概念を市民がどれくらい把握し、理解しているのかがわかるようなアンケート内容にすることも大切。また、紙アンケートがしやすい方もいれば、最近ではQRコードで回答する方やインターネットで回答する方など手段がいくつもあるので、回答率が上がる方法で行うこと。回答したら、なんとポイントがもらえるなど、何かメリットがあれば回答する方も増えるのではないか。

⇒紙回答だけでなく、SNSを使って回答をするということを考えていかななくては思っている。各種イベントにQRコードを設置して、アンケートを依頼すれば回収率もあがるが、何よりも、アンケートに答えていただくことで市民一人でも多くの方に意識を持ってもらえる、啓発につながるということに意味がある。

- ・前回回収率の60%はかなり高いと思うが、南砺市全体の人口から考えると有効回答600余りというのは、少ないと思う。どれくらいの数があればよいのか、計算してみる。

- ・アンケートは現状を把握する目的と啓発という大きい目的がある。アンケートをとることが人づくり、意識啓発の一步になることを意識することが大切。
- ・計画的に1年おきなどにアンケートをとることも考えてはどうか。
- ・アンケートの質問の仕方が難しい。正確に答えがわかるのは、「あなたはこういうことをしていますか？」という事実を問う質問だけと言われている。
- ・SDGsについてのアンケートを考える時、SDGsのゴールには、こんな取組みがありますが、やっていますか？」という問いかけにすれば、アンケートに答えることで、自分の行動とつながり、認めてもらえていると感じる。自分が地球の一員であるという思いをもたないと、狭い視点だけでは、環境問題なんてやっている場合ではないと思ってしまう。南砺市民は全国的に見ても、意識は高いと思うので、自分の思考を前向きに整理できることにつなげることにもアンケートは役立つ。
- ・SDGsについてのアンケートで、あまりハードルが上がると、主婦層は遠く感じるので、日々の一消費者の行動に提案するということにつなげることをお願いしたい。  
⇒ご意見を参考にして、アンケート調査を行いたいと思う。

[全体を通して]

- ・SDGsについて、組織における、啓蒙や進捗具合などに働きかけがあれば、団体としては意識していくことができる。  
⇒講演や説明会など、機会があれば出向いている。その後、どのようにしてSDGsを意識した事業を進めているかは行っていない。
- ・SDGsが地元の中小企業にどういう風に啓蒙されるかが、一番のポイントだと思う。
- ・中間目標を設定するときに、市民に大変わかりやすい目標が一つ二つあるといい。電力部門で〇%、消費総エネルギー部門で〇%などと目標をたてると、段階を追ってクリアしていくと、実施している側も今いる位置がわかる。
- ・環境共生型地域社会と言った時、資源が生まれる場所と資源が消費される場所のどこで線を引くかということが生じてくることを理解していて欲しい。
- ・役員層の年齢はSDGsという言葉自体が受け入れがたいため、経営者教育が必要。

- ・農林水産の立場から、森林伐採は計画的に行っているが、原料が足りなくなってきたおり、これからバイオマス発電が国内の木材で賄えるのか、海外に依存するのか論点になるだろう。

意見・質問は以上により審議を終了。

○総合政策部長あいさつ

11時50分審議会終了